東京都三鷹市立三鷹図書館の「わんだふる読書体験」と海外の事例から

子どもを支える動物の力

講演：大塚 敦子氏　　田中 博文氏

アメリカなどで盛んに行われている「子どもたちが犬に本の読み聞かせをする」活動を、日本の公共図書館で初めて取り入れた東京都三鷹市立三鷹図書館。導入に尽力されたお二方に、このユニークな活動が子どもたちにもたらす効果、アメリカをはじめ各国で数多く行われているその理由などのほか、困難を抱える人を支える動物の力についてもお話しいただきます。

●講師紹介●

(C) Yuriko Ochiai

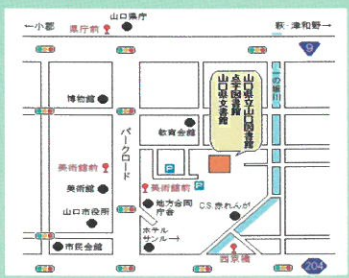
大塚　敦子氏

フォトジャーナリスト、写真絵本・ノンフィクション作家。紛争地取材を経て、人がよりよく生きることを助ける動物たちについて取材、執筆。2000年代から、アメリカで、子どもが犬に本の読み聞かせをする「R.E.A.D.プログラム」の取材を開始し、日本へ導入。主な著書に『〈刑務所〉で盲導犬を育てる』『犬が来る病院　命に向き合う子どもたちが教えてくれたこと』『いつか帰りたい　ぼくのふるさと　福島第一原発20キロ圏内から来たねこ』『ギヴ・ミー・ア・チャンス　犬と少年の再出発』、『さよなら エルマおばあさん』など。

田中　博文氏

東京都三鷹市立三鷹図書館長。2016年、国内の公立図書館としては初となる「R.E.A.D.プログラム」を取り入れた事業を「わんだふる読書体験」として年間事業化。公益社団法人日本動物病院協会と協働し、動物との触れ合いを通じた新たな読書体験の事業に取り組む。

- 日時：２０１９年１２月８日（日）午前１０時～１２時
- 会場：山口県立図書館 レクチャールーム
  山口県山口市後河原150－１
- 定員：２５０名（先着申込順）
- 入場料：無料
- 申込み方法：メール又は電話にてお名前と参加希望人数をご連絡ください
- 問合せ・申込み先：yneko2019@gmail.com / 083-932-6633



主催：肉球生活向上委員会 With Wan / 共催：山口市環境衛生課